

重点プロジェクト①

次世代文化体験プロジェクト

草津の文化を担う次世代を育成するとともに、大人になっても文化に親しむ基盤づくりを行うため、学校や地域社会等において幼少期から文化に触れることができる機会の充実に取り組みます。

また、子どもや若者が草津に生まれ育ってよかったと思え、後に市民としての誇りやアイデンティティーの礎となるような文化体験の機会を創出するための仕組みづくりに取り組みます。

これまでの主な取組

1 アートフェスタくさつ（拡大）

事業主体：市教育委員会、草津市21世紀文化芸術推進協議会 他
H30年度の条例制定を機に拡充。子どもを対象としたアートワークショップの他、市民とアーティストの交流の場であるクリエイターズマーケットを日中に開催。夜には草津川跡地公園で映画を上映し、一日を通してアートに触れること出来るイベント。



開始年度：H23-
参加者数
H30：8,725名
R1：5,662名
R2：136名
R3：125名
※R2、R3はコロナの影響により
星降る映画館のみ実施

2 イオンモール草津との連携（新規）

事業主体：市教育委員会、イオンモール草津
令和元年に文化振興に関する協定を締結。隔月で、地域のアーティストを活用したアートワークショップを開催。年に一回、イオンモール館内全体でコンテスト、ワークショップ、展示、マルシェ等のアートイベントを開催。



開始年度：R1-
参加者数
R1：5,218名
R2：898名
R3：650名
※R2、R3はコロナの影響により
規模縮小

3 こども芸術鑑賞応援制度（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール、企業、団体
企業、団体からの寄付を原資に、ひとり親家庭の御家族を文化ホールが主催するミュージカル、コンサート、伝統芸能等の公演に招待する。寄付へのリターンとして、広告の掲載、招待した家族からのメッセージを送付している。



開始年度：R3-
寄付金額：36万円
寄付企業、団体数：19
R3招待数：26組62名

4 学校連携プログラム（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール
誰もが平等に文化を鑑賞する機会を提供するため、学校向けのアウトリーチ、インリーチ事業をパッケージ化し、希望する学校に提供。

開始年度：R4-
①劇団四季のミュージカル
②打楽器のコンサート
③狂言のワークショップ



成果と課題

成果

- ・市民、企業等の多様な主体によるオール草津での取り組みを進められている。
- ・学校との連携が課題であったが、各学校の状況を踏まえ、教科書やカリキュラムと連動した内容とし、一律ではなく選択性にしたことで、受け入れやすいプログラムとすることができた。

課題

- ・企業との連携は、経済的な環境により事業規模が縮小する可能性があり、継続性に懸念がある。
- ・未就園児を対象とした事業を検討する必要がある。

今後の方向性

引き続き、企業との連携を進めつつ、新たな財源や連携方法の研究を進める。

未就園児を対象とした（仮）アートスタート事業の展開を検討する。

重点プロジェクト②

13万人の文化プロジェクト

誰もが人として尊重され、社会参加することができる優しいまちを形成するため、高齢者、障害者等で文化活動に参加する環境が十分とは言えない人々に向けた社会包摂プログラムの展開に取り組みます。

また、働く世代で、文化活動のための自由な時間をつくりにくい人など、普段文化に触れる機会が少ない人でも参加しやすい、魅力的な文化事業の充実に取り組みます。

これまでの主な取組

1 アミカウェルカムコンサート（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール 他

身体的、精神的な理由等により、普段文化ホールを訪れることが困難な子どもを対象として、インリーチコンサートを開催。事前に生徒たちの好きな曲や、必要な配慮等をヒアリングし、コンサートを仕上げた。



実施年度：R1
参加者：11名
※中学校の特別支援学級

2 ルーフトップコンサート（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール 他

駅前で夕方の帰宅時間に、仕事や勉強等に忙しく、文化に触れる機会が少ない人や障害者でも、気軽に鑑賞できるコンサートを開催。YouTubeによる配信を行う他、草津駅東口デッキ周辺にて音源の放送とYouTubeのQRコードの掲示を行った。



実施年度：R2
参加者数：565名
(屋上78名、YouTube視聴者208名、音源鑑賞者279名)

3 みんなともだちコンサート（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール

看護師の配置、手話通訳および要約筆記の配置、座席を一部撤去し車椅子席を設けるなど、誰もが鑑賞しやすい配慮を行った。体を動かす参加型のプログラムを実施し、誰もが同じ空間で文化に親しむことができる環境を創出した。

実施年度：R2
来場者数：480名



4 【再掲】こども芸術鑑賞応援制度（新規）

事業主体：市教育委員会、文化ホール、企業、団体

企業、団体からの寄付を原資に、ひとり親家庭の御家族を文化ホールが主催するミュージカル、コンサート、伝統芸能等の公演に招待する。寄付へのリターンとして、広告の掲載、招待した家族からのメッセージを送付している。

実施年度：R3-
寄付金額：36万円
寄付企業、団体数：19
招待数：26組62名



成果と課題

成果

- ・県やNPOと連携しながら事業の企画、展開を図ることができた。
- ・障害者等の方が必要とする配慮を学び、事業に生かすことができた。

課題

- ・主に、配慮が必要な方が対象となるため、コロナの感染が収束しないと、一部の事業の再開が困難である。
- ・これまで展開した事業のストックをどのように生かすか検討する必要がある。

今後の方向性

ストックできた事業や蓄積したノウハウを生かし、コロナ収束後を見据えた事業展開を図る。

実施できなかった障害者福祉施設へのアウトリーチも実施に向けて取り組む。

重点プロジェクト③

ふるさと草津の心プロジェクト

市民のシビック・プライドを醸成するとともに、本市の文化の魅力を市内外に発信するため、本市の文化的資産の価値を再発見、再認識することができる機会の充実に取り組みます。

また、メディア芸術や生活文化（食、ファッション等）、景観その他も含め、幅広い分野から新しい魅力の創出につながるものを重点的に推進することを検討し、草津らしい個性ある文化の創造を目指します。

これまでの主な取組

1 草津市歴史文化基本構想の策定

地域に存在する文化財を指定・未指定に関わらず幅広く捉えて、的確に把握し、その周辺環境も含めて、総合的に保存・活用するための構想を平成31年3月に策定。

本市の歴史文化の特徴を中核となる国指定史跡と合わせて、以下の3つにまとめた。



野路小野山製鉄遺跡

(1) 生産の歴史文化
古代には、瀬田丘陵周辺で大規模な製鉄・鑄造を中心とした火を使ったものづくりが行われており、当時の都との関りを窺うことができる。



史跡戸浦観音寺跡

(2) 信仰の歴史文化
寺社などの建造物や地域に受け継がれる風習や民俗芸能が現在まで大切に守り伝えられ、発掘調査により古代からの人々の祈りの姿を見ることができる意向や遺物が確認されている。



史跡草津宿本陣

(3) 街道の歴史文化
古代から交通の要衝として知られ、陸上交通と琵琶湖を介した湖上交通の集積地となり、人と物が行き交う地としてその名を広めた。

2 アートイベントにおける文化的資産の活用

アートフェスタくさつ
⇒文化財や寺社仏閣の活用

市美術展覧会およびピワアートフェスにおける企画展示
⇒街道交流館所蔵品や草津ブランドの展示、啓発

キッズシネマ塾
⇒子ども達が草津の文化を題材とした短編映画の制作を体験

草津歌劇団
⇒文化的資産を題材にしたミュージカルの公演

3 新たな魅力の創造

市美術展覧会におけるイラスト部門の新設
⇒R3より試験的にイラスト部門による企画展を開催

草津あおばな会への運営費補助
⇒「くさつブルー（仮）」の商標登録、草津あおばな企画展の開催等

草津ブランドの推進
⇒草津ブランドの認証、草津ブランド市の開催、販路拡大等

サンヤレ躍りの日本遺産への登録
⇒H30に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」の構成要素の一つとして追加認定

成果と課題

成果

- ・本市の歴史文化の特徴を「ものづくり」「街道」「信仰」に仕分けることができた。
- ・事業を進める中で、アーティストや地域、企業との連携を深めることができた。

課題

- ・新たな魅力の創造には、機運の醸成や関係者との連携が必要であるため、長期的なスパンで取り組む必要がある。

今後の方向性

引き続き、様々な機会を通じて、文化的資産の魅力を市内外に発信することに取り組む。

新たな魅力の創造は、草津独自の文化的資産の磨き上げを行いながら、長期的な視点で取り組む。